

傾斜放牧地での初冬期播種による土壌流亡を低減させる 簡易更新技術

【1 成果の概要】

- (1) 傾斜放牧地において、初冬期播種を行う場合、作溝式播種機での簡易更新（11月中旬播種）では完全更新（11月上旬耕起、中旬播種）に比べて早春の融雪や梅雨時期の大雨による土壌流亡の発生が著しく少なくなります（図1）。
- (2) 簡易更新は完全更新より新播牧草の定着率、乾物収量とも低い傾向ですが、統計的に意味のある差は見られません（表1、2）。
- (3) 簡易更新では完全更新と比較して初期生育が早く、放牧利用可能となる草高30cmに到達する日が約40日早くなります（表2）。

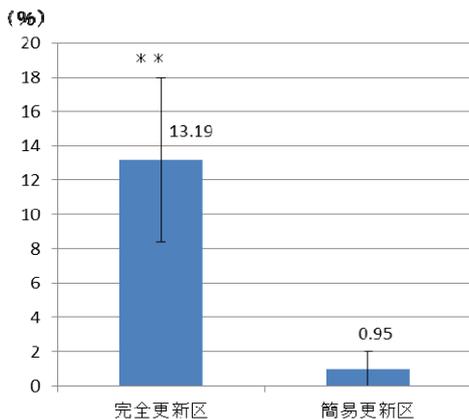


図1 土壌流亡割合

** : P<0.01

土壌流亡割合は、ライン法により20mの直線上で流亡が起きた長さの割合から算出した。(n=各5)

表1 発芽約1か月後の新播牧草の定着率

	株数(本)		定着率(%)
	5/22	6/21	
完全更新区	128.3	59.3	47.2±5.7
簡易更新区	106.7	33.3	33.2±14.5

30cm×30cmの方形枠中で追播牧草の出現個数から算出した。(定点調査:n=各3)

表2 草高約30cmに到達する日および乾物収量

	到達日数(日)	乾物収量(g/m ²)
完全更新区	86	151.6±10.9
簡易更新区	45	129.0±26.5

1m×1mの方形枠での収量。(定点調査:n=各3)

【2 効果】

傾斜放牧地での初冬期播種では、完全更新と比較して作溝式播種機による簡易更新を用いると土壌流亡が少なく、早期放牧利用が可能となります。

【3 留意事項】

作溝式播種機はエイチゾン社製グラスファーマーを使用し、オーチャードグラス(品種:バッカス、播種量:2.5kg/10a、作溝幅14cm)を播種したものです。また、供試した圃場は、オーチャードグラス主体草地であり、造成から10年以上経過し、傾斜度は12°、標高は800mとなっています。

担当研究室

畜産研究所 外山畜産研究室 〒028-2711 盛岡市玉山区薮川字大の平40 TEL. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012